

期日  
会場

令和5年5月9日(火)13:45~16:20  
各所属校(オンライン)

内容

1 説明「佐伯教育事務所管内 授業改善の重点と今年度の取組の方向性」

(1)教務主任・研究主任等へ3つのお願い

- ①4点セットなどマネジメント・ツールへの積極的にかかわりを
- ②学校の教育目標達成と校内研究推進が連動した取組へ
- ③主任等がチーム長となり、チームごとに成果と課題を共有へ

(2)授業改善の重点と今後の方向性

- ①管内指導の重点(授業改善の徹底)
- ②授業シート(略案)の活用
- ③個別の指導計画推進教員の活用 ほか

2 講義「深い学びを実現するための指導と評価の在り方」 國學院大學教授 田村 学 氏

(1)令和の日本型学校教育の構築

(2)主体的・対話的で深い学びと知識の構造化による評価規準の設定

1 教務主任・研究主任等のみなさまへのお願い ①学校評価の4点セット

項目	評価	コメント
授業	4点	
学習	4点	
指導	4点	
評価	4点	

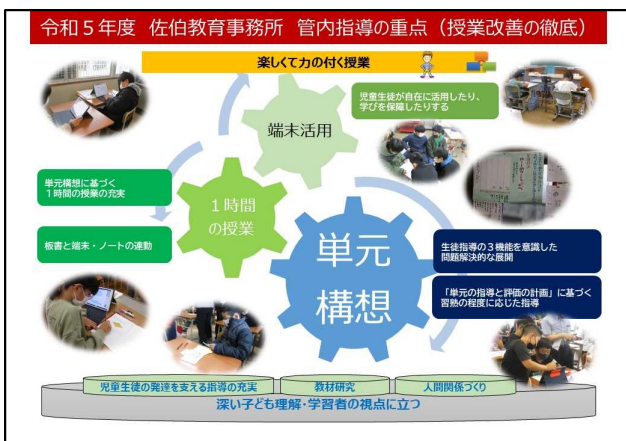
左半分 右半分

1 教務主任・研究主任等のみなさまへのお願い ②4点セットから研究テーマ設定

「学校の教育目標達成を目指す校内研究ハンドブック」→p.9

①生徒による授業評価(学期に1回)により、学習習慣の定着度8割、授業の満足度が9割以上 ②定期テストの平均点6割以上(70%)、平均点4割未満(10%) ③次年度の国・県及び市の学力鑑	③学級担任、教科担任はノートにコメントを載せたり、より良いノートを積極的に展示したりして、意欲喚起と周りの生徒への啓蒙を図る。 ①全ての教科担任は、「主体的・対話的で深い学び」の視点を位置づけ、授業の「目標」と「まとめ・振り返り」、板書とノートがそれぞれ一致する完結型授業を毎時間繰り返し徹底する。 ②全ての教科担任は、学期1回以上の図書館及びICTを活用した授業を行う。 ③全ての教科担任は、学期1回以上の提案(互見)授業を実施する。
--	---

★課題解決型校内研究～「4点セット」の中から研究課題を選定  
★学校の教育目標達成と校内研究が連動した取組へ



令和5年度 佐伯教育事務所 管内指導の重点(授業改善の徹底)

児童生徒の発達を支える指導の充実と学習者の視点に立った魅力的な授業づくり～楽しく力の付く授業

- ★生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開
  - 各教科等の力・考え方を働かせ「課題設定・情報収集・整理・分析・まとめ・表現・発表」の過程で、各の過程を繰り返す。探究力を育成し、探究心を高め、主体的・対話的で深い学びの実現
  - 自己学習、共働的な関係性、自己存在を基盤とした単元の展開(個別最適化学び)
  - 協働的な学びの一体的充実(多様な視点の共有・協働、一人ひとりの力で課題に挑戦し、協働学習等)
  - 知識の形作り、問題の発見・解決、情報を整理し、考えの形成、思いや考えに基づく創造(課題解決)
- ★「単元の指導と評価の計画」に基づく習熟の程度に応じた指導
  - 「単元の指導と評価の計画」の作成と活用、児童生徒との共有
  - 「習熟の程度」に応じた指導(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現・発表)による個別最適化
- ★単元構想に基づく1時間の授業の充実
  - 本時で目指す子どもの姿(学習観)の明確化・具体化・学習活動の精緻化
  - 学習の共通しさを促す「基礎を固める」活動
  - 学習の発展性を考慮し、学びの深さを高める「応用の場」
  - 学習の発展性を考慮し、学びの深さを高める「応用の場」
  - 習熟すべき事項を明確にする(課題)、追究した結果を明確にする(まとめ)
- ★板書と端末・ノートの連動
  - 思考を整理したり戻したりして、思考の過程を振り返ることできる板書とノート、端書
  - 考えをつないでいく、振り返りして自分の考えを振り返るための情報整理
- 児童生徒が自在に活用したり、学びを保障したりする
  - 学習活動における日常的な活用(思考の可視化、意見交換、協働学習)、学習の記録、興味関心に応じた活用等)
  - 学習活動における日常的な活用(思考の可視化、意見交換、協働学習)、学習の記録、興味関心に応じた活用等)
  - 学習活動における日常的な活用(思考の可視化、意見交換、協働学習)、学習の記録、興味関心に応じた活用等)

【参加者の感想】※抜粋

【参加者による達成度評価】3. 8(4段階法)

- 主体的で対話的な学びのイメージや協働的な学びを知り、いろいろなタイプがあることがわかった。知識のつなげ方について、今後自分の授業を改善していく必要を感じた。
- 今まで何となく理解したつもりでいた主体的・対話的で深い学びについて、モデル図や具体的な場面を例示していただき、職場の同僚教員に説明することの自信が付き、実践していこうという意欲がわいた。
- 知識の構造化について、知識のつながり方に様々な型があることをこれまであまり意識したことがなかったので、今後自分の授業に落とし込んでいきたい。
- 「評価規準をいかに具体的にかつシャープに言語化できるか」の田村先生の言葉は、毎日の授業展開を考えるうえで大事にしたいことと改めて感じた。付けたい力が明確であり、そこに即した授業展開になっているかを振り返る視点にしたい。

令和5年度 佐伯教育事務所管内 第2回地域授業改善協議会 実施要項（案）

- 1 目的 自立した学習者の育成に向けて、単元や題材など、時間や内容のまとまりを見通した単元構想のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実及び1人1台端末の活用の在り方に関する説明・発表・協議を行うことを通して、今後の各学校における具体的な実践の見通しをもつことができるようにするとともに、管内児童生徒の学力の向上に資する。
- 2 主催 大分県教育委員会
- 3 期日 令和5年7月31日（月） 9:00～12:00
- 4 会場 佐伯総合庁舎 4階大会議室（佐伯市長島町1-2-1）
- 5 対象 管内小・中学校の研究主任等（各校1名）  
佐伯市教育委員会関係者  
その他、佐伯教育事務所長が参加を認めた者

6 日程

時 間	内 容
9:00～9:15	【受付】（大会議室前）
9:15～9:30	【開会行事】
9:30～10:00	【説明】 「自立した学習者の育成」に向けた授業改善の視点について 大分県教育庁佐伯教育事務所 指導主事 都留 俊之
10:10～10:50	【発表①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と1人1台端末の活用の在り方 【発表者】佐伯市立佐伯小学校 教諭 梶原 望生 氏 【発表②】 教科等横断的な学習はこうつくる！主体的に学ぶ子どもの育成に向けたカリキュラム・デザイン 【発表者】佐伯市立渡町台小学校 教諭 佐々木 淑子 氏
11:00～11:50	【協議・演習】 自校における今後の取組等について 大分県教育庁佐伯教育事務所 指導主事 都留 俊之
11:50～12:00	【閉会行事・連絡】

7 準備物

※検討中

8 その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当日朝の検温をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、実施方法が変更になる場合があります。その際は、事前に連絡します。